

恒例になった「公開ゼミナール」

今年も7月31日に学部オープンキャンパスが実施された。午前と午後2回にわたり、さまざまな企画を学生参加で行うようになり4年目となる。暑いなか、800名をかなり超える高校生らが参加して、今年も大いに盛り上がりを見せた。

わがゼミは率先して、最初から「公開ゼミナール」を開催してきており、ゼミ恒例の行事となってきた。今年は3年と4年のゼミ生の大半が参加して、「まちづくりを考える 中心市街地と郊外、商店街と大型SC」をテーマにぶっつけ本番でゼミを行った。最初に4年生が「地方都市のドーナツ化現象～宮市の郊外化から考える」というテーマでビジュアルに報告して、それをもとに討論を行った。7月12日に行った卒論の中間報告会の成果を報告したもので、今年は公開ゼミとの連続的な展開をはかることができた。



午前中は参加者も多かったので、最初は緊張気味のゼミ生ではあったが、だんだんいつもの「調子」が出てきた。討論を通じて、中心市街地と郊外の問題点、改善の方向を参加者と一緒に明らかにできたと思う。とりわけ中心市街地の商店街と大型SCとの共存・共生、そして商店街の個性化と街の統一感など、おもしろい論点も浮かび上がってきた。

急遽つくってくれたチラシに「公開ゼミが後悔ゼミにならないように今日は頑張ります」と書かれていた。私も後悔せずに公開ゼミを終えることができた。

(2006年8月14日 記)